

うめのき幼稚園だより

げんきもりもり

えがおにここに

ひとみきらきら

7月

令和5年6月30日
北区立うめのき幼稚園

考える楽しさ

園長 篠澤 恵理

年長もり組では、「なぞなぞ」を考えて、友達の前で伝える日が続いています。「もり組クイズ」として、自分たちの保育室にあるものをよく見ながら「問題」として作っていくこともあります。「形」「大きさ」「色」「何に使うか」など、物がどのようなものであるかを言葉にして伝えることは、子どもたちにとって難しいことなので、「ヒントボックス」という箱に「色」や「形」の紙を用意して、それを取り出して見せながら伝えるようにすると、伝える側も伝えられる側も、目でも確認できて分かりやすくなりました。友達の作った問題を聞くうちに、物の見方や捉え方が、人によって様々であることを学ぶ機会にもなっています。

さて、幼稚園には、様々な形の積木があります。この度、子どもたちが考えながら選んで使えるように、同じ形を揃えて置くための表示を付けることになり、形に合った名前をもり組に考えてもらいました。枠の形は「テレビ積木」、立方体の形は「椅子積木」など、これまで何かに見立てて遊んだ経験から思い浮かぶ名前が、いくつも提案されました。「椅子積木」に決まるまでには、「サイコロ」も案として出されたとのことでしたが、りす組も分かりやすい方がよいと、毎日話し合っていて考えを伝えながら決めたようです。何かに見立てて名前を考える過程には、なぞなぞの経験が役立ちました。



また、このやり取りの中で、手を上げて発言したり、友達の考えを受け入れたりする姿が多く見られるようになりました。このことは、自分の考えたことが受け入れられたり、必要感で変更した方がよいと思ったりするなど、友達と一緒に伝え合いながら決めていく体験になりました。

年少りす組は、染め紙遊びの際に、障子紙の折り方を変えてやってみようとする子がいました。思いの段階で、子どもが取り組もうとしていることを声に出して受け止めていくと、次も考えてみようとする気持ちにつながっていきます。言葉で表すことが難しい場合でも、小さなつばやきや、ちょっとした体の動きに、「こうしたい」という子どもの思いを感じることがあります。子どもたちの心の動きを丁寧に見ていくと、考えにつながる場面が見えてきます。幼児期に育みたい力である「思考力の芽生え」につながるように、「こうしたいのね。」「よく考えたね。」と、受け止めていくことで、もっと考えようとする動きになるように支えていくとよいですね。「さよなら三角 またきて四角 四角は豆腐 豆腐は白い・・・」という言葉遊びも、物の捉え方の幅を広げる機会になりそうです。この夏、お子様と一緒に言葉遊びを楽しんでみてはいかがでしょうか？

えがおにここにコーナー



全日公開日には、地域の皆様に講師としてご協力いただき、親子一緒に木工製作や体操を楽しみました。頭を使って考えながら物作りをしたり、体を十分に動かしながら運動遊びをしたりすることは、幼児期に必要な体験です。7月の園生活でも「できた。」「またやってみよう。」と思うことを積み重ね、夢中になって遊ぶ毎日になるように努めてまいります。



【年長もり組 木工製作】



【年少りす組 親子体操】



【年長年少 一緒にボール遊び】